

## 2月3日は節分の日

節分の豆まきは、<sup>からぎ</sup> 柗の枝に<sup>いわし</sup> 鯛の頭を刺し戸口に立て「鬼は外、福は内」の掛け声に合わせて鬼打豆をまき、<sup>やく</sup> 厄を払い福を呼び込む行事です。

本来、節分とは季節が移り変わる立春・立夏・立秋・立冬の前日のことで、年に4回あります。旧暦では、立春を年の初めとしたので、その前日、つまり<sup>おおみそか</sup> 大晦日を節分として重要視するようになりました。古代中国の宮中では、大晦日に<sup>ついな</sup> 追儺という邪を払う儀式<sup>じのぎしき</sup> がありました。この儀式が<sup>もんむ</sup> 文武天皇(697~707年)の時代に伝わり、日本でも宮中の年中行事に取り入れられたといわれています。儀式は、<sup>ほう</sup> 方相氏という役の者が、<sup>ほこ</sup> 矛や<sup>たて</sup> 楯を持って<sup>だいり</sup> 内裏を巡り、鬼を外へ追い出します。このとき、<sup>でんじょうびと</sup> 殿上人は桃の弓で<sup>あし</sup> 葦の矢を鬼に射掛<sup>いか</sup> けました。時代が下ると、鬼を払う役の方相氏が、追われる役の鬼へと変化していったようです。

鎌倉時代になると、宮中での追儺の儀式は衰えはじめ、江戸時代には行われなくなりました。その一方で、寺社や庶民の間に広まり、江戸時代には節分の行事となりました。

旧暦の大晦日は、今の暦では2月3日に当たります。市内でも多くの寺社で節分会、節分祭が行われています。<sup>だん</sup> 檀家や<sup>うじこ</sup> 氏子が協力し合い、年中行事の一つとして、地域社会のつながりを守る力にもなっています。近くの寺社の節分会・節分祭へ参加してみると、地元についての新しい発見や再発見があるかもしれません。そして、夕暮れには家庭でも豆まきを。

厄を払い福を呼び込み、令和2年が良い年となりますよう「鬼は外、福は内」。

園 生涯学習課 ☎(50)1224

